

② 学習習慣の確立

【具体的な取組の方向】

- 年間を通して学習実態調査を行う。(年間5回) A【進路】
- 『進路のてびき』(平成24年度)の発行準備をする。 A【進路】
- 小テストの定着と充実を図り、復習のための要点をおさえた課題を課する。 B【国語】
- 隔週ごとにプリントを配付し、基礎・基本的な事項を理解させる。 B【地歴公民】
- 1及び2年次生では平日課題及び週末課題を課し、学習時間の確保を図る。 A【数学】
- 定期的に課題を課し、提出状況を把握するための一覧表を週単位で提示する。 B【理科】
- 復習事項及び内容を明示し、小テストで理解及び定着度を把握する。 B【英語】
- 2年次より進路に関わる学力の養成のための週末課題と長期休業中課題を課する。 B【家政科】
- 家庭からの協力と理解を得るために、更に内容の充実した年次通信を発行する。 A【1年次】
- 年次通信と進路通信について、生徒用と保護者用を用意し、保護者の関心を満たすような情報を確実に伝える。 C【2年次】
- 年次通信と進路通信について、3年次にふさわしい学習習慣の確立について保護者の意識を高めてもらえるような情報を発信する。 B【3年次】

【プロセス】

【進路課】

- 学習実態調査 4月・6月・9月・11月・1月に実施した。
- 『進路のてびき』の発行準備に向けて、「受験体験記(向上進取)」を発行し配布する。

【家政科】

- 就職問題集を購入させ、週末課題を課し小テストを実施している。夏季休業中は、家政科の課題とし提出させた。

【1年次】H23入学

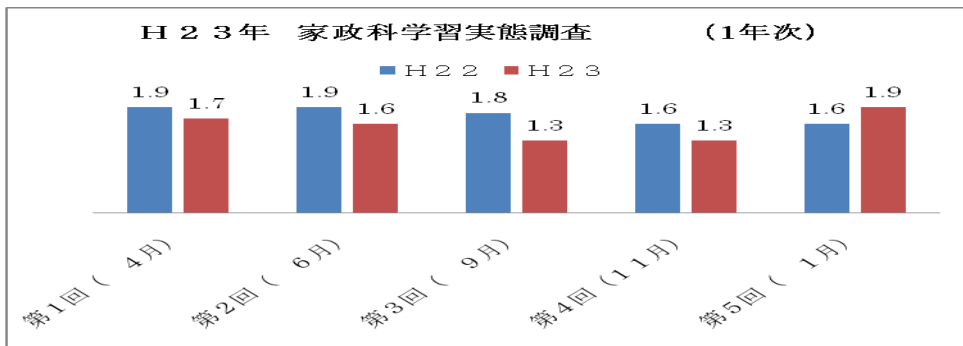
- 4月初旬の年次集会以来、一日平均学習時間を普通科は4時間(国語1時間、数学と英語は1.5時間)、家政科は2時間を確保することを継続指導している。そのために、その時間量に見合う学習内容や課題を課すよう申し合わせている。
- 年次団を挙げて弱点教科科目の学習指導を行った。

【2年次】H22年入学

- 1年次の9月に学習時間が減少した。その時以来、復習の仕方にも注意を向けさせ、何を復習すべきかを明確に意識させ、復習時間のあり方を改善させた。教科も復習項目や内容を生徒に明示し、次回の小テスト等で確認をしている。
- 年間を通じて、週末に課題一覧を作成して生徒に配付した。

【3年次】H21年入学

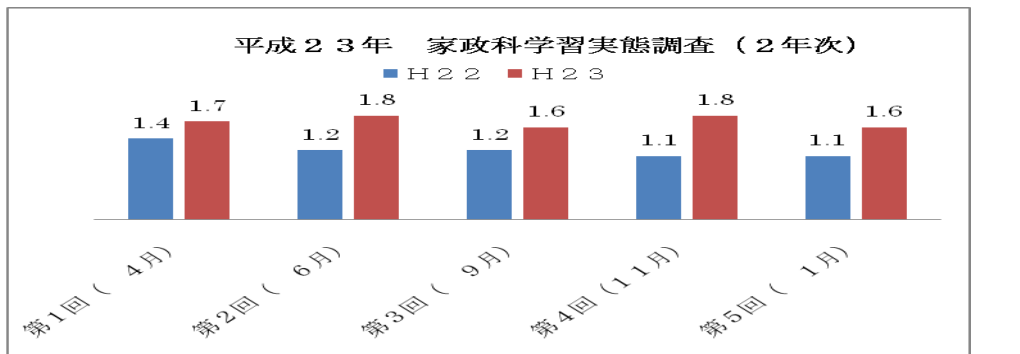
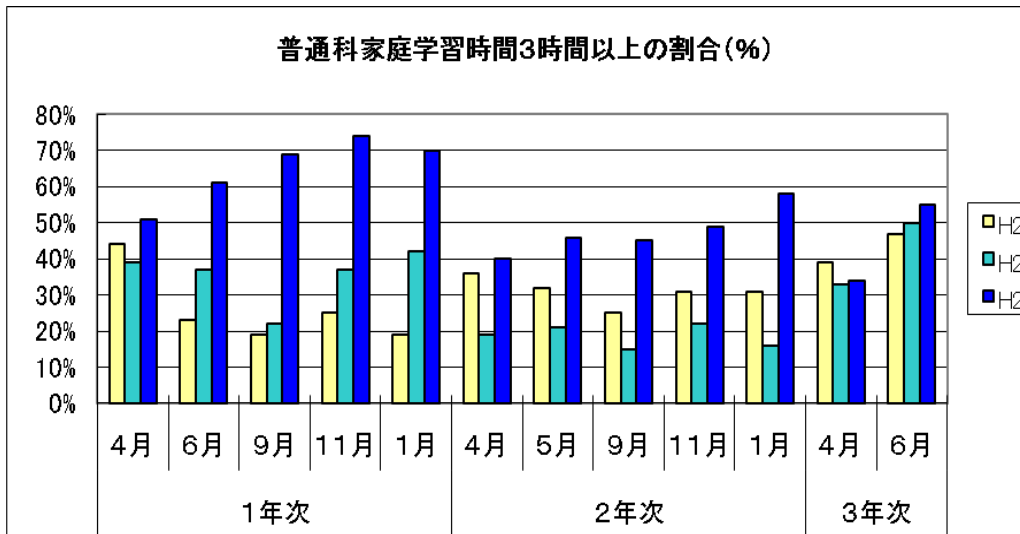
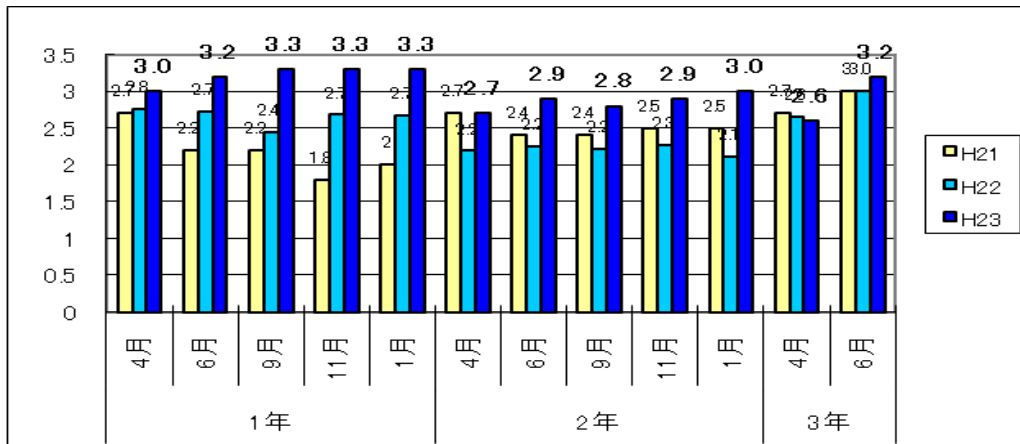
- 高校生活になじめない生徒がいて、1・2年次生の時落ち着いて学習できない状態が続いた。ミニ集会や学年集会をする中で次第に落ち着きを取り戻した。2年次の後期からは将来の目標を見定めた学習のあり方についての自覚がもてるようになった。現在は、5教科の一日の平均学習時間は、問題演習のための予習復習が大部分を占めている。



【結果等】

【進路課】

- 家庭学習時間については、1年次3.3時間、2年次3.0時間で目標達成



【家政科】

- 長期休業中の問題演習(課題)については、国語と地歴分野を学び、提出率は83%であった。(2年次)
- 3年次では、4月~7月の間週末課題を課したが、提出率は70%であった。但し、理数科目の空欄が目立った。

課題と目標

- 授業力・指導力の向上の取り組みの中で、授業や課題の工夫等は進んでいるが、家庭学習時間の増加としては成果が出ていない。
- 平均家庭学習時間
 - ・家政科 1.5時間以上
 - ・普通科 1・2年 3.0時間以上
3年 3.5時間以上
- 家庭学習時間3時間以上
 - 普通科 1・2年 50%
3年 60%
- 予習・復習をしている
 - 普通科 3.0以上

